

未来を開く

長井市立長井北中学校 No29 令和3年7月19日

第1回学校運営協議会開催

「子ども達をどう育てるか・・・」。目標やビジョンを地域の方々とともに考え、共有し、開かれた学校づくりに生かしたい。



7月9日(金)に第1回学校運営協議会を開催しました。委員の方々は右記のとおりです。

新型コロナウイルス感染症予防に配慮しながら、授業の様子や校内もご覧いただき、ご意見をいただくことができました。

さて、今回の協議のテーマは「今年度の学校経営について」でした。①授業の様子や地域での子どもの様子から感じること ②教育計画について ③中学生に期待すること ④部活動方針について熟議し、方向性を模索していただきました。

■当日の流れ■

1 開会	7 協議
2 あいさつ	(1) 今年度の学校運営について
(1) 長井市教育委員会	(2) 熟議・日課表
(2) 校長	・生徒の様子
3 授業一巡	・部活動方針について
4 自己紹介	8 その他
5 会長・副会長の選出	9 閉会
6 座長選出	

■令和3年度 長井北中学校学校運営協議会 委員名簿■

(敬称略 ◎会長 ○副会長)

NO	氏名	所属・役職名	備考
1	◎大竹 仁	中央コミュニティセンター館長	地域代表
2	○梅津 洋	長井小学校長	関係機関
3	横澤 敏	致芳コミュニティセンター館長	地域代表
4	高橋 順一	西根コミュニティセンター館長	地域代表
5	鈴木 義明	致芳小学校長	関係機関
6	佐々木友明	西根小学校長	関係機関
7	菅 和悦	中央地区子供会育成会連絡協議会顧問	地域代表
8	青木 輝子	西根地区主任児童委員	地域代表
9	深澤 賢一	PTA会長	保護者代表
10	佐々木綾子	PTA母親委員長	保護者代表
11	目黒 孝博	学校教育課長	事務局
12	深瀬 柊介	地域づくり推進課主事	
13	大場 隆	コミュニティ・スクールディレクター	
14	迎田 浩昭	長井北中学校長	
15	横澤 聡一	長井北中学校教頭	
16	仁科佳代子	長井北中学校事務主査	
17	中善寺由美	地域学校協働活動推進員	



「熟議」：各委員からのご意見等

「授業や地域での子どもの様子から感じること」について

- 学校全体の落ち着いた雰囲気や、1・2年生の明るい授業の様子を直接拝見して、安心することができた。
- コロナ禍においても、元気よく学ぶ姿を見て、とても頼もしく感じた。
- 掲示物などを拝見すると、一人一人にしっかりと目標を持たせ、方向付けをていねいにすることで、子どもたちが道を見失うことなく安心して進んでいることがよく分かった。
- 5 時限授業を週3日間設定したことにより、先生方にゆとりが生まれ、それが、生徒からにじみ出る温かな雰囲気につながっていると感じた。
- 朝、立哨指導していると、「おはようございます」と自然に返してくれる生徒が多くなった。

教育計画(今年度の学校経営の重点等)について

- 5 時限授業を週3日間設定したことにより、生徒みんなが元気で登校できる日数が増えたり、学力向上につながるよう期待している。
- 安全に関する情報(新型コロナウイルス感染症予防、熊、大雨 等)を、メールで配信していただくことにより、保護者や地域住民にとって安心感につながっている。ぜひ、今後も継続してほしい。
- 不審者対応訓練を今後実施予定とお聞きし、感謝している。
- 学校スローガン「磨き鍛えた40年 より たくましく あたたかく」に、生徒と教員が一体となって進もうとする意志が感じられる。

○めざす生徒像「凜とした生徒」は、家庭でもめざす姿に通じる。学校と家庭が、今まで以上に連携して進んでいきたい。

- 「いじめ」や「ヤングケアラー」に関わる深刻な状況が、全国で報告されている。生徒を取り巻く環境の把握と、関係機関との連携を、丁寧にきめ細やかに進めてほしい。

中学生に期待すること

- ★地域のリーダー研修会等をおして、小学生のいい兄貴分として活躍できるような場を設定していきたい。
- ★今年は「西根教育の村宣言20周年」を迎える。それぞれの年代がこれからの展望と思いを語る契機としたい。中学生の声もぜひ寄せてもらいたい。
- ★長期休業中の学習会などをおして、中学生が中心となって地域活動をつくる契機としたい(中央コミセン、西根コミセン)。

部活動方針について

- 生徒の減少にともない、部員と担当顧問の先生の減少につながり、教育活動としての部活動の運営が難しくなっている現状が、よくわかった。
- 社会教育への移行や、地域スポーツの充実など、学校だけでは解決できない課題であり、難しい状況である。
- 部活動統廃合規定はあるが、実質的に統廃合が進まず、部員数が少ない中で活動をしている部活動が多いことがわかった。
- 生徒や保護者の意向をふまえると、統廃合が簡単に進まない現状は理解できる。中体連の規定の見直しや、地域スポーツの在り方を総合的に見直していかなければならない時期であろう。